



一般社団法人 日本病理学会
〒101-0041
東京都千代田区神田須田町2-17
神田INビル6階
TEL: 03-6206-9070
FAX: 03-6206-9077
E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp
http://pathology.or.jp

一般社団法人日本病理学会

第416号

令和4年(2022年)12月刊

1. 第68回秋期特別総会 終了

標記総会が開催され、盛会にて終了いたしました。

会期: 令和4年11月17日(木)～18日(金)

会場: 岡市民文化ホール・アイーナ

いわて県民情報交流センター

(オンデマンド配信期間: 2022年11月28日(月)

～12月26日(月))

会長: 岩手医科大学 菅井 有

なお、学術集会、社員総会、理事会等の詳細につきましては、今後の会報、HP等にて順次ご報告いたします。

2. 令和3年度事業報告ならびに収支決算について

令和4年11月17日開催の令和4年度定時社員総会(第68回秋期特別総会・盛岡)において、標記の件が以下の通り承認されました。

(1) 令和3年度事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催

(1) 第110回日本病理学会総会

(於東京・北川昌伸会長)

(2) 第67回日本病理学会秋期特別総会

(於岡山・吉野 正会長)

2. 研究会、講習会等の開催

(1) 第17回日本病理学会カンファレンス

(2) 細胞診講習会・病理診断講習会・分子病理診断講習会・剖検講習会・分子病理専門医講習会・分子病理 Up to Date 講習会(兼 分子病理専門医 更新講習会)

(3) ゲノム病理標準化講習会

(4) 第15回診断病理サマーフェスト

(5) 各支部における学術・研究集会、「夏の学校」等

3. シンポジウム等の開催

II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」の発行(第110巻第1～2号)

2. 「Pathology International」の発行(Vol. 71 4～12, Vol. 72 1～3)

3. 「診断病理」の発行(第38巻第2～4号, 第39巻第1号)

4. 「日本病理学会会報」の発行(第396～407号)

5. 「お知らせ」(第40号～41号)の発行

6. 「病理専門医部会報」の発行(令和3年第2～4号, 令和4年第1号)

III. 研究および調査並びに知識の普及

1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第62輯(平成31/令和元年症例)

2. 剖検輯報編集方法の充実

3. 剖検記録データベースの更新

4. 病理学卒前教育の充実

5. インターネットホームページの充実

6. 政府等委託・研究事業の実施

(1) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)委託研究事業

「病理診断支援のための人工知能(病理診断支援AI)開発と統合的『AI医療画像知』の創出」(7月終了)

(2) 令和3年度厚生労働省補助金事業

「希少がん診断のための病理医育成事業」

IV. 研究の奨励および研究業績の表彰

1. 日本病理学賞(宿題報告)の授与

2. 病理診断学賞(病理診断特別講演)の授与

3. 学術研究賞(A演説)の授与

4. 症例研究賞(B演説)の授与

5. 学術奨励賞の授与

6. 100周年記念病理学研究新人賞の授与

V. 病理専門医等の資格認定及び病理診断関連活動

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新

2. 病理専門医の広報

3. 病理専門医研修施設の認定および資格の更新

4. 病理専門研修プログラムの運用指導

5. 分子病理専門医の認定・試験の実施

6. 病理解剖研修の充実

7. 生涯教育の充実

8. 病理診断コンサルテーションシステムの充実

9. 病理精度管理体制の充実

10. 各種ガイドラインの作成

11. 医療における病理診断・病理解剖の推進

VI. 学術団体等との協力、連絡

1. 学術団体等との会議共催および後援(国内)の実施

2. 腫瘍取扱い規約等の改訂・「領域横断的癌取扱い規約」の更新
3. 海外病理学会との交流

- VII. その他目的を達成するために必要な事業
 1. 会員システムの充実
 2. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施

(2) 令和3年度決算報告書

1) 貸借対照表

2022年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減額
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	151,001,695	153,851,160	△ 2,849,465
現金	728,896	757,399	△ 28,503
普通預金	96,714,575	100,682,863	△ 3,968,288
郵便振替	10,539,155	14,451,306	△ 3,912,151
支部現金預金	43,019,069	37,959,592	5,059,477
未収金	766,000	4,359,000	△ 3,593,000
前払金	5,413,490	6,687,017	△ 1,273,527
前払費用	280,000	270,775	9,225
流動資産合計	157,461,185	165,167,952	△ 7,706,767
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(2) 特定資産			
学術医療振興基金引当預金	98,436,973	98,436,693	280
国際交流基金引当預金	20,156,742	20,157,012	△ 270
100周年記念事業引当資産	1,948,054	2,269,047	△ 320,993
特定資産合計	120,541,769	120,862,752	△ 320,983
(3) その他固定資産			
器具工具備品	7,637,700	13,078,732	△ 5,441,032
保証金	1,578,780	1,578,780	0
長期貸付金	1,000,000	1,000,000	0
その他固定資産合計	10,216,480	15,657,512	△ 5,441,032
固定資産合計	160,758,249	166,520,264	△ 5,762,015
資産合計	318,219,434	331,688,216	△ 13,468,782
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,162,223	7,055,020	△ 4,892,797
前受金	3,975,000	6,781,000	△ 2,806,000
預り金	490,442	772,142	△ 281,700
仮受金	103,880	0	103,880
未払法人税等	1,131,700	544,000	587,700
未払消費税等	1,268,000	1,524,000	△ 256,000
流動負債合計	9,131,245	16,676,162	△ 7,544,917
2. 固定負債			
退職給付引当金	15,754,920	13,522,140	2,232,780
固定負債合計	15,754,920	13,522,140	2,232,780
負債合計	24,886,165	30,198,302	△ 5,312,137
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	293,333,269	301,489,914	△ 8,156,645
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(30,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(120,541,769)	(120,862,752)	(320,983)
正味財産合計	293,333,269	301,489,914	△ 8,156,645
負債及び正味財産合計	318,219,434	331,688,216	△ 13,468,782

2) 正味財産増減計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで
(単位: 円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	306	△ 306
基本財産受取利息	0	306	△ 306
特定資産運用益	1,199	999	200
特定資産受取利息	1,199	999	200
受取会費	72,555,000	73,059,000	△ 504,000
学術評議員会費	16,075,000	17,124,000	△ 1,049,000
一般会員年会費	35,266,000	34,208,000	1,058,000
賛助会員受取会費	100,000	100,000	0
終身会員費	4,000,000	4,800,000	△ 800,000
病理専門部会費	17,114,000	16,827,000	287,000
海外会員年会費	0	0	0
事業収益	230,586,192	207,207,152	23,379,040
学術集会収益	126,578,663	121,058,500	5,520,163
広告料収益	120,000	0	120,000
輯報刊行物収益	9,504,795	10,411,360	△ 906,565
専門医制度収益	69,117,500	50,042,100	19,075,400
病理専門医部会収益	4,060,670	5,714,710	△ 1,654,040
講習会等収益	9,259,000	9,842,000	△ 583,000
支部集会等収益	3,337,495	2,219,002	1,118,493
賠償保険事務収益	3,520,069	3,516,480	3,589
ゲノム講習会収益	5,088,000	4,403,000	685,000
受取委託収益	3,900,000	52,528,236	△ 48,628,236
受取委託収益	3,900,000	52,528,236	△ 48,628,236
受取補助金等	29,530,645	27,658,200	1,872,445
受取寄付金	4,700,000	12,291,817	△ 7,591,817
受取寄付金	4,700,000	12,291,817	△ 7,591,817
雑収益	19,623,900	18,649,545	974,355
受取利息	1,758	2,385	△ 627
雑収益	1,645,000	1,372,663	272,337
著作権協会分配金	211,658	349,890	△ 138,232
PIロイヤリティ	8,187,928	7,156,637	1,031,291
著作権使用料	70,680	78,600	△ 7,920
編集協力費収入	3,947,876	1,602,370	2,345,506
日病会誌	774,000	695,000	79,000
転載料	4,785,000	7,392,000	△ 2,607,000
経常収益計	360,896,936	391,395,255	△ 30,498,319
(2) 経常費用			0
事業費	345,254,004	364,803,111	△ 19,549,107
給与手当	39,160,653	38,823,663	336,990
臨時雇賃金	244,827	0	244,827
退職給付費用	0	0	0
福利厚生費	66,410	62,441	3,969
会議費	7,695,389	8,866,401	△ 1,171,012
旅費交通費	4,558,477	5,293,632	△ 735,155
通信運搬費	9,209,249	8,924,640	284,609
消耗什器備品費	150,340	2,797,230	△ 2,646,890
消耗品費	3,644,174	3,987,059	△ 342,885
修繕費	233,325	1,153,240	△ 919,915
印刷製本費	40,708,411	36,960,699	3,747,712
光熱水料費	522,912	549,154	△ 26,242
賃借料	8,014,145	8,442,776	△ 428,631

諸謝金	10,987,768	15,992,086	△ 5,004,318
租税公課	3,100	23,000	△ 19,900
支払負担金	40,220	100,760	△ 60,540
支払助成金	1,822,029	1,122,035	699,994
支払寄付金	0	192,000	△ 192,000
委託費	65,997,594	82,037,537	△ 16,039,943
雑費	649,800	1,270,809	△ 621,009
支払手数料	13,208,813	9,889,731	3,319,082
新聞図書費	71,524	33,266	38,258
学術集会同会場費	28,351,002	7,614,511	20,736,491
学術集会設営費	69,380,331	23,745,089	45,635,242
学術集会人件費	11,872,911	6,009,200	5,863,711
学術集会業務委託費	1,559,996	4,784,024	△ 3,224,028
学術集会広告費	39,336	840,576	△ 801,240
学術集会印刷費	13,335,053	20,099,518	△ 6,764,465
学術集会同会議費	771,277	8,636,929	△ 7,865,652
学術集会諸費用	6,347,431	24,400,480	△ 18,053,049
学術集会 WEB 費用	6,607,507	42,150,625	△ 35,543,118
管理費	23,799,577	34,478,054	△ 10,678,477
臨時雇賃金	0	0	0
退職給付費用	2,232,780	0	2,232,780
福利厚生費	0	0	0
会議費	0	0	0
旅費交通費	680	960	△ 280
通信運搬費	285,429	363,872	△ 78,443
消耗什器備品費	0	0	0
消耗品費	229,060	176,729	52,331
修繕費	0	0	0
法定福利費	6,346,868	6,014,083	332,785
印刷製本費	113,600	52,250	61,350
保険料	25,500	25,500	0
諸謝金	395,000	201,370	193,630
租税公課	4,778,778	4,570,976	207,802
支払負担金	2,549,900	1,782,550	767,350
支払助成金	0	0	0
委託費	619,070	700,470	△ 81,400
雑費	681,880	2,747,005	△ 2,065,125
減価償却費	5,441,032	17,682,289	△ 12,241,257
支払手数料	100,000	160,000	△ 60,000
経常費用計	369,053,581	399,281,165	△ 30,227,584
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,156,645	△ 7,885,910	△ 270,735
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 8,156,645	△ 7,885,910	△ 270,735
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計			0
(2) 経常外費用			0
経常外費用計			0
当期経常外増減額			0
一般事業振替	△ 5,658,282	8,153,340	△ 13,811,622
支部会計振替	△ 6,779,000	△ 6,497,000	△ 282,000
委託事業振替	13,482,249	△ 62,900	13,545,149
収益事業振替	△ 1,044,967	△ 1,593,440	548,473
税引前当期一般正味財産増減額	△ 8,156,645	△ 7,885,910	△ 270,735
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,156,645	△ 7,885,910	△ 270,735
一般正味財産期首残高	301,489,914	309,375,824	△ 7,885,910
一般正味財産期末残高	293,333,269	301,489,914	△ 8,156,645

II. 指定正味財産増減の部				0
一般正味財産への振替額	0	0		0
当期指定正味財産増減額	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0		0
III. 正味財産期末残高	293,333,269	301,489,914		△ 8,156,645

3) 財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

① 工具器具備品

定率法によっている。

② ソフトウェア

定額法によっている。

(2) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・従業員の退職給付に備えるため、当期末における要支給額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用しています。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
学術医療振興基金引当預金	98,436,693	830	550	98,436,973
国際交流基金引当預金	20,157,012	170	440	20,156,742
100周年記念事業引当預金	2,269,047	17	321,010	1,948,054
合計	150,862,752	1,017	322,000	150,541,769

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	うち指定正味財産からの充当額	うち一般正味財産からの充当額	うち負債に対応する額
基本財産				
普通預金	30,000,000	0	30,000,000	0
特定資産				
学術医療振興基金引当預金	98,436,973	0	98,436,973	0
国際交流基金引当預金	20,156,742	0	20,156,742	0
100周年記念事業引当預金	1,948,054	0	1,948,054	0
合計	150,541,769	0	150,541,769	0

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
器具工具備品	29,553,019	21,915,319	7,637,700
ソフトウェア	0	0	0
合計	29,553,019	21,915,319	7,637,700

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
希少がん病理診断支援補助金	厚生労働省	0	26,995,000	0	26,995,000	一般正味財産
各支部での補助金	その他民間団体等	0	2,212,725		2,212,725	一般正味財産
助成金	WILLY	0	322,920	0	322,920	一般正味財産
寄附金						
第110回春期総会寄附金	日本製薬団体連合会	0	3,500,000	0	3,500,000	一般正味財産
第67回秋期総会寄附金	おかやま観光コンベンション協会	0	850,000	0	850,000	一般正味財産
第67回秋期総会寄附金	その他民間団体等	0	300,000	0	300,000	一般正味財産
第17回カンファレンス寄附金	一般財団法人協和会	0	50,000	0	50,000	一般正味財産

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除額	0
合 計	0

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表に対する注記2.基本財産及び特定資産の増減及びその残高に記載しているため、記載を省略する。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	13,522,140	2,232,780	0	0	15,754,920

4) 財産目録

2022年3月31日現在 (単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金	手元保管	運転資金として	728,896
現金			96,714,575
普通預金			
	みずほ銀行 本郷支店	運転資金として (一般用)	25,447,378
	みずほ銀行 本郷支店	運転資金として (専門医用)	3,831,830
	みずほ銀行 本郷支店	運転資金として (専門医部会用)	2,173,541
	みずほ銀行 本郷支店	運転資金として (剖検用)	6,903,244
	みずほ銀行 本郷支店	運転資金として (保険用)	13,058,565
	みずほ銀行 本郷支店	運転資金として (研究費用)	28,441,316
	みずほ銀行 本郷支店	運転資金として (口腔病理用)	927,818
	みずほ銀行 本郷支店	運転資金として (退職引当用)	15,754,920
	三菱UFJ銀行 本郷支店	運転資金として (基本財産運用)	175,963

	振替口座			10,539,155
	支部現金預金	ゆうちょ銀行	運転資金として	10,539,155
		各支部現金預金	運転資金として	43,019,069
	未収金			766,000
	前払金			5,413,490
		聖堂前ビル事務所賃借料		413,490
		第 111 回春期総会準備金		5,000,000
	前払費用	ICCR membership subscription		280,000
流動資産合計				157,461,185
(固定資産)				
基本財産	普通預金	普通預金 三菱 UFJ 銀行 本郷支店		30,000,000
特定資産	学術医療振興基金引当預金	普通預金 三菱 UFJ 銀行 春日町支店		98,436,973
	国際交流基金引当預金	普通預金 りそな銀行 本郷支店		20,156,742
	100 周年記念事業引当預金	普通預金 みずほ銀行 本郷支店		1,948,054
その他固定資産	器具工具備品	サーバー等	希少がん用	7,637,700
	保証金	聖堂前ビル		1,578,780
	長期貸付金	日本専門医機構		1,000,000
固定資産合計				160,758,249
資産合計				318,219,434
(流動負債)				
	未払金	アデコ (株)		2,162,223
		日本ユニシス (株)		584,576
		富士ソフト (株)		550,000
		(一社) National Clinical Database		410,850
		その他		226,600
	前受金			390,197
		終身会費部会		3,975,000
		令和 4 年度一般会費		3,600,000
	預り金			375,000
		源泉所得税		490,442
		住民税		204,760
		謝金源泉所得税		142,100
		年会費等		20,582
	仮受金	北海道支部夏の学校前受金		123,000
	未払法人税等	法人税及び住民税, 事業税		103,880
	未払消費税等	消費税確定納付分		1,131,700
流動負債合計				1,268,000
流動負債合計				0
(固定負債)				
	退職給付引当金			15,754,920
流動負債合計				0
負債合計				0
正味財産				318,219,434

3. 令和 5 年度事業計画ならびに収支予算について

令和 4 年 11 月 17 日開催の令和 4 年度定時社員総会 (第 68 回秋期特別総会・盛岡) において、標記の件が以下の

通り承認されました。

(1) 令和 5 年度事業計画

(令和 5 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催
 - (1) 第112回日本病理学会総会
(於下関・池田栄二会長)
 - (2) 第69回日本病理学会秋期特別総会
(於久留米・矢野博久会長)
 2. 研究会、講習会等の開催
 - (1) 第19回日本病理学会カンファレンス
 - (2) 細胞診講習会・病理診断講習会・分子病理診断講習会・剖検講習会・分子病理専門医講習会・分子病理 Up to Date 講習会 (兼 分子病理専門医 更新講習会)
 - (3) ゲノム病理標準化講習会
 - (4) 第17回診断病理サマーフェスト
 - (5) 各支部における学術・研究集会、「夏の学校」等
 3. 市民公開講座・シンポジウムの開催
- II. 学会誌、学術図書等の発行
1. 「日本病理学会会誌」の発行(第112巻第1～2号)
 2. 「Pathology International」の発行(Vol. 73 4～12, Vol. 74 1～3)
 3. 「診断病理」の発行(第40巻第2～4号, 第41巻第1号)
 4. 「日本病理学会会報」の発行(第420～431号)
 5. 「お知らせ」(第43号～44号)の発行
 6. 「病理専門医部会報」の発行(令和5年 第2～4号, 令和6年 第1号)
- III. 研究および調査並びに知識の普及
1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第64輯(令和3年症例)
 2. 剖検輯報編集方法の充実
 3. 剖検記録データベースの更新
 4. 病理学卒前教育の充実
5. インターネットホームページの充実
 6. 政府等委託・研究事業の実施
- IV. 研究の奨励および研究業績の表彰
1. 日本病理学賞(宿題報告)の授与
 2. 病理診断学賞(病理診断特別講演)の授与
 3. 学術研究賞(A演説)の授与
 4. 症例研究賞(B演説)の授与
 5. 学術奨励賞の授与
 6. 100周年記念病理学研究新人賞の授与
- V. 病理専門医等の資格認定及び病理診断関連活動
1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
 2. 病理専門医の広報
 3. 病理専門医研修施設の認定および資格の更新
 4. 病理専門医研修プログラムの運用指導
 5. 分子病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
 6. 病理解剖研修の充実
 7. 生涯教育の充実
 8. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
 9. 病理精度管理体制の充実
 10. 各種ガイドラインの作成
 11. 医療における病理診断・病理解剖の推進
- VI. 学術団体等との協力、連絡
1. 学術団体等との会議共催および後援(国内)の実施
 2. 腫瘍取扱い規約等の改訂・「領域横断的癌取扱い規約」の更新
 3. 海外病理学会との交流
- VII. その他目的を達成するために必要な事業
1. 会員システムの充実
 2. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施

(4) 令和5年度収支予算書

(2023年4月1日から2024年3月31日)

(単位: 円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益		306	△ 306
基本財産受取利息		306	△ 306
特定資産運用益	1,199	999	200
特定資産受取利息	1,199	999	200
受取会費	77,462,000	75,013,800	2,448,200
学術評議員会費	15,256,000	16,133,000	△ 877,000
一般会員年会費	38,152,000	37,752,000	400,000
賛助会員受取会費	100,000	100,000	0
終身会員費	6,300,000	4,000,000	2,300,000
病理専門部会費	17,654,000	17,028,800	625,200
事業収益	200,760,256	216,113,818	△ 15,353,562
学術集会収益	113,920,796	122,526,812	△ 8,606,016
広告料収益	126,000	126,000	0
輯報刊行物収益	9,504,795	10,400,948	△ 896,153

専門医制度収益	52,660,500	57,046,310	△ 4,385,810
病理専門医部会収益	4,060,670	5,771,857	△ 1,711,187
講習会等収益	9,259,000	9,842,000	△ 583,000
支部集会等収益	3,337,495	2,216,782	1,120,713
賠償保険事務収益	3,590,000	3,586,809	3,191
ゲノム講習会収益	4,301,000	4,596,300	△ 295,300
受取補助金等	33,145,000	27,000,000	6,145,000
受取寄付金	4,700,000	12,062,634	△ 7,362,634
受取寄付金	4,700,000	12,062,634	△ 7,362,634
雑収益	19,509,952	19,463,257	46,695
受取利息	1,758	2,400	△ 642
雑収益	1,645,000	1,509,929	135,071
著作権協会分配金	211,658	349,890	△ 138,232
PIロイヤリティ	8,073,980	7,156,637	917,343
著作権使用料	70,680	73,096	△ 2,416
編集協力費収入	3,947,876	2,083,225	1,864,651
日病会誌	774,000	970,000	△ 196,000
転載料	4,785,000	7,318,080	△ 2,533,080
経常収益計	335,578,407	349,654,814	△ 14,076,407
(2) 経常費用			
事業費	317,335,455	333,626,142	△ 16,290,687
給与手当	39,787,223	39,211,899	575,324
退職給付費用	2,053,740	2,337,720	△ 283,980
福利厚生費	66,410	65,690	720
会議費	7,695,389	8,610,417	△ 915,028
旅費交通費	4,558,477	5,822,995	△ 1,264,518
通信運搬費	9,209,249	8,341,136	868,113
消耗什器備品費	150,340	1,092,590	△ 942,250
消耗品費	3,644,174	2,974,030	670,144
修繕費	233,325	1,153,240	△ 919,915
印刷製本費	39,641,411	35,330,305	4,311,106
光熱水料費	622,912	554,645	68,267
賃借料	12,394,301	8,527,203	3,867,098
諸謝金	10,987,768	11,039,176	△ 51,408
租税公課	3,100	26,010	△ 22,910
支払負担金	40,220	60,000	△ 19,780
支払助成金	1,822,029	3,510,771	△ 1,688,742
支払寄付金	0	1,060,000	△ 1,060,000
委託費	57,613,582	49,143,756	8,469,826
雑費	649,800	1,383,596	△ 733,796
支払手数料	7,147,813	9,777,861	△ 2,630,048
新聞図書費	71,524	19,846	51,678
学術集会会場費	25,515,902	8,375,962	17,139,940
学術集会設営費	58,973,281	25,394,751	33,578,530
学術集会人件費	10,091,974	6,069,292	4,022,682
学術集会業務委託費	1,325,997	5,262,426	△ 3,936,429
学術集会広告費	33,436	840,576	△ 807,140
学術集会印刷費	11,334,795	20,501,508	△ 9,166,713
学術集会会議費	655,585	9,500,620	△ 8,845,035
学術集会諸費用	5,395,316	24,644,484	△ 19,249,168
学術集会WEB費用	5,616,381	42,993,637	△ 37,377,256
管理費	19,468,189	19,891,828	△ 423,639
旅費交通費		162,045	△ 162,045
通信運搬費	285,429	285,409	20
消耗品費	229,060	184,342	44,718
法定福利費	6,346,868	6,314,787	32,081
印刷製本費	113,600	254,516	△ 140,916
保険料	25,500	20,420	5,080
諸謝金	395,000	371,049	23,951

租税公課	4,778,778	4,570,000	208,778
支払負担金	2,549,900	2,049,900	500,000
支払助成金	0	700,000	△ 700,000
委託費	619,070		619,070
雑費	681,880	997,069	△ 315,189
減価償却費	3,283,104	3,822,291	△ 539,187
支払手数料	160,000	160,000	0
経常費用計	336,803,644	353,517,970	△ 16,714,326
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,225,237	△ 3,863,156	2,637,919
当期一般正味財産増減額	△ 1,225,237	△ 3,863,120	2,637,883

4. 主たる事務所移転および定款変更とその他定款一部文言変更について

68回秋期特別総会・盛岡)において、標記の件が以下の通り承認されました。

令和4年11月17日開催の令和4年度定時社員総会(第

【現行】	【変更案】
<p>第1章 総 則</p> <p>第1条変更なし</p> <p>(事務所)</p> <p>第2条 この法人は、主たる事務所を東京都<u>文京区</u>に置く。</p> <p>第3条～第6条 変更なし</p> <p>(学術評議員)</p> <p>第7条</p> <p>1～3 変更なし</p> <p>4 <u>学術評議員は、満65歳に達した事業年度の翌事業年度から、学術評議員としての地位を失う。</u></p> <p>(入会)</p> <p>第8条 会員になろうとする者は、<u>所定の入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を得なければならない。</u></p> <p>以降変更なし</p> <p>第9条以降変更なし</p> <p>新規追加</p>	<p>第2条 この法人は、主たる事務所を東京都<u>千代田区</u>に置く。</p> <p>4 学術評議員の任期は2年以内とし再任を妨げない。但し、65歳に達した年度の3月31日を超えないものとする。</p> <p>第8条 会員になろうとする者は、<u>所定の入会申請を行い、理事会の承認を得なければならない。</u></p> <p>附則</p> <p>この定款は、令和4年11月17日から施行する。</p>

5. 定款施行細則一部文言改定について

【現行】	【改定案】
<p>第1章 会員</p> <p>第1条 この法人に入会しようとする者は、<u>所定の入会手続の上、会費を支払うものとする。</u></p> <p>2 変更なし</p> <p>第2条 以降変更なし</p> <p>新規追加</p>	<p>第1条 この法人に入会しようとする者は、<u>学術評議員の推薦を得て、所定の入会申請の上、会費を支払うものとする。</u></p> <p>附則</p> <p>1. この定款施行細則は、令和4年11月17日から施行する。</p>

6. 「がんゲノム検査全般に関する指針」一般公開のご案内

この度、日本病理学会と日本臨床検査医学会の両アカデミアが協働で「がんゲノム検査全般に関する指針」を策定いたしました。

本指針は「がんゲノム検査」全般に関する精度管理や精度保証はもちろんのこと、必要な資源・費用の目安を示すとともに、医療機関（特になんゲノム医療を扱う医療機関）における病理専門医と臨床検査専門医の配置、並びに専門医育成プログラムの策定など、両学会連名で各関係団体に働きかける典拠となる指針となっています。また本指針の付録「参考資料」では具体的な手順書や機器などを紹介し、日常診療ですぐ実践に役立つものとなっております。既に会員専用ページにて両学会会員には公開しておりましたが、各方面から多数の一般公開のご要望をいただき、今回、日本病理学会・日本臨床検査医学会、両学会のHPにて公開することといたしました。

がんゲノム検査に関して日常診療の参考にしていただければ幸甚に存じます。詳細は以下ホームページよりご確認ください。

<https://www.pathology.or.jp/news/20221122genome.html>

7. 「演題応募における倫理的手続きに関する指針」について

令和4年11月開催の日本病理学会理事会において、「日本病理学会学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針」が正式承認されました。演題内容によりカテゴリAからEに分類し、観察研究に相当するカテゴリBはその内容によりB1、B2に分類され、それぞれのカテゴリにおいて満たされるべき要件をチェック形式で記載しています。今後の演題応募には該当するカテゴリにおいて必要な要件が全て満たされていることが必要となります。本指針は2024年名古屋にて開催予定の第113回総会演題募集時（令和5年秋頃を予定）から正式適用といたします。会員の皆様におかれては、ご留意の上、今後の研究準備をお進めいただけますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

関係資料等詳細は以下ホームページよりご確認ください。
<https://pathology.or.jp/side/endai-guidelines.html>

8. 令和5年度新学術評議員の推薦について

下記の本学会学術評議員資格に照らし合わせて、学術評議員として適当と思われる会員がありましたら、別紙の書式を用いてその候補者の所属機関、職名、略歴並びに業績目録をそえ、推薦者2名連署（ともに推薦時に学術評議員であること）のうえ、令和5年1月31日（消印有効）までに学会事務局宛書留等にてお送り下さい（申請書／推薦書はホームページよりダウンロードして下さい）。

参照HP:

<https://www.pathology.or.jp/news/whats/5-1.html>

各位よりご推薦のありました候補者に付きましては、資格審査委員会による審査を経て、理事会にて学術評議員として適当であるかを審議され、認められた候補者は春期総会時に開催される学会総会にて承認を受けることとなります。

学術評議員資格

以下の資格条件1あるいは2をみたす正会員とする

1. 申請時点において、病理研究歴（初期臨床研修期間含まない）満7年以上かつ会員歴5年以上の会員で、以下のAまたはBの条件を満たす者

- A. 病理学（学際分野を含む）に関する原著論文（英語論文）の発表が3編以上あり、その少なくとも1編の論文の筆頭著者である者
- B. 病理専門医資格あるいは口腔病理専門医資格を有し、筆頭著者として発表した論文が1編以上ある者

2. 傑出した研究業績を有し、日本病理学会の学術面に大きく貢献すると資格審査委員会および理事会が認めた者

- 注：1) 論文は査読のある雑誌に掲載されていること。
2) 病理専門医あるいは口腔病理専門医の論文は症例報告を含めることができる。
3) 論文については、候補者が必要とされる業績をみたしていることが証明できる分を提出すること。

提出書類

1. 学術評議員申請書/推薦書式

（ホームページよりダウンロード）

※学術評議員である推薦者2名の直筆署名があること。

※功労会員・名誉会員・一般会員は推薦者になれません。

2. 代表的な自著論文の別刷り各1部のコピー 5編以内

- ① 学術評議員資格1のAに該当：3編以上
- ② 学術評議員資格1のBに該当：1編以上
- ③ 学術評議員資格2に該当：5編

受付期限

令和5年1月31日（月）消印有効

提出先・問合せ先

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-17

神田INビル6階

一般社団法人日本病理学会 学術評議員推薦受付係

E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp TEL: 03-6206-9070

書類受け取りに際して

- ・簡易書留もしくはそれに準ずる形でお送り下さい。
- ・書類の受領確認連絡をメールにて順次差し上げますので、申請書には会員システムに登録しているメールアドレスを必ずご記入下さい（会員システムに登録しているメールアドレスを普段使っていない場合は、使っているメールアドレスに更新して下さい。誤送信を防ぐ為、

はっきりと読みやすい字でお願いいたします)。なお、発送後10日を過ぎても受領連絡の無い場合は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。メールアドレス未記入の場合、受領確認のご連絡は致しかねますので予めご了承ください。

参考:

学術評議員関連規定(抜粋)

<https://www.pathology.or.jp/news/kitei.pdf>

その他

1. 学術評議員のご申請、ご推薦に際して

学術評議員は、「本学会の教育、研究、病理診断に関わる事項について評議するとともに、定款ならびにここに定める資格をもって、病理学の発展に貢献する責務を有する。」ものとなっています。こちらの主旨を充分ご理解の上、ご申請、ご推薦をお願いいたします。

2. 学術評議員のキーワード登録について

上記1の主旨に従い、学術評議員には、専門分野・キーワードを学会に登録いただくことになっています。これらのデータは会員専用ページに掲載され、学術集会での座長選出や“Pathology International”の査読依頼など、学術交流のさらなる活発化のために役立てられています。

3. 学術評議員年会費について

平成26年度より、一般会員と同額(13,000円)に値下げとなりました。尚、学会では、年会費の口座自動振り替えのご利用を推進しています。まだご利用でない方は是非ご検討下さい。

4. 会員システムについて

① 平成29年7月より新たに会員システムが稼働しております。各自ログインの上、登録内容の確認をお願いいたします。

② 令和3年10月よりSingle Sign Onが導入されております。今まで病情報ネットワークセンターと希少がんサイトの利用にはUMIN IDとPWが必要でしたが、会員システムへのログイン方法に統合されました。SSO導入後、最初のログイン時には、「SSO認証情報連携」が必要になりますので、ご注意ください。

Single Sign On導入による会員システムログイン方法変更のお知らせ

<https://www.pathology.or.jp/news/single-sign-on.html>

③ 平成31年度より学術評議員の更新(2年ごと)が開始となりました。その際は恐れ入りますがキーワードの新規登録をお願いいたします。(学術評議員申請の際に登録いただいたキーワードは反映されておりません)。

④ 令和5年度学術評議員推薦が承認された会員におかれましては、初回の更新手続きが令和7年度となります。2回目以降の更新の際には、登録されたキーワードがデフォルトで表示されますので、確認・変更のみとなります。

9. 第71回(令和7/2025年度)秋期特別学術集会会長ならびに第115回(令和8/2026年度)学術集会会長の募集について(公募のお知らせ)

一般社団法人日本病理学会は、第71回(令和7/2025年度)秋期特別学術集会会長ならびに第115回(令和8/2026年度)学術集会会長を以下のとおり募集いたします。

日本病理学会秋期特別学術集会(秋期特別総会)の会長ならびに学術集会(春期総会)の会長は、定款施行細則の定めるところにより、いずれも理事会が選考し、総会において決定しています。

ここに、第71回(令和7/2025年度)秋期特別学術集会会長ならびに第115回(令和8/2026年度)学術集会会長を、下記の要領により募集いたします。

記

1) 応募は自薦であること。

2) 応募者は、第71回秋期特別学術集会会長の場合は令和7/2025年11月1日に、また、第115回春期学術集会会長の場合は令和8/2026年4月1日にそれぞれ満65歳以下の日本病理学会学術評議員であること。

3) 応募者は、日本病理学会学術集会開催要領(別記)の趣旨を踏まえて、所定の用紙に学術集会に対する考え方、学術集会の具体的な実行計画、日本病理学会及び関連学会において近年に行った主要な学術活動等を記載すること。記入に際しては、用紙に適切に収まるよう配慮すること。

4) 署名欄には直筆で氏名を記入すること。

5) 応募の締切りは、令和5年1月末日必着とすること。なお、所定用紙の交付または本件についての質問がありましたら、本学会事務局までお問い合わせください。

日本病理学会事務局

E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp TEL: 03-6206-9070

提出方法

① 応募書類送付の前に、応募申請のE-mailをお送りください。

i) E-mailの件名として「第71回秋期特別学術集会会長応募申請」あるいは「第115回春期学術集会会長応募申請」とし、その後ろにご自身の会員番号も記載してください。

ii) 1. 送信予定日時 2. 氏名 3. 所属(教室名まで正式名称を)を記載してください。

② ①の申請メール送信後、応募書類(すべての書類をひとつのPDFファイルとしてつないだもの)をPDF電子媒体としてメールに添付するかたちで送付してください。

i) 件名・表題等は「第71回秋期特別学術集会会長応募書類送付」あるいは「第115回春期学術集会会長応募書類送付」として、その後ろにご自身の会員番号を記載してください。

ii) ファイル受領から「業務日」3日以内に受領メールを返信いたします。受領のメールが届かない場合は、すみやかに事務局宛にお問い合わせください。

- iii) 各種連絡や審査用資料の作成については、会員システム登録の情報を元に行われます。事前に登録内容の確認、修正をお願いします。

提出先

E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp

※本年度の公募よりデータでの提出となります。ご注意ください。

応募用紙

以下 HP よりダウンロードしてください。

<https://www.pathology.or.jp/news/whats/kaichouboshuu-221125.html>

【別記】

日本病理学会学術集会開催要領

本学術集会開催要領は、学術集会改革案（平成 18 年 5 月 1 日決定）の主旨に基づき、国際化への対応を含め、改めて学術集会の開催に係る要領を定めたものである。

「背景」

日本病理学会は「病理学に関する学理及びその応用についての研究の振興とその普及を図り、もって学術の発展と人類の福祉に寄与する」ことを目的としており、学術集会は「病理学に関わる学会員が研究発表と意見交換を通して持続的な後継者の育成をするとともに、病理学に関する最新情報の収集を行う場」として重要な役割を担っている。病理学が対象とする分野は広く、基礎研究においては様々な研究手段や技術を包含するのみならず、病理診断の精度向上は社会的要請として日本病理学会に課せられている。これら多種多様な分野の連結を図り、新たな医学と医療の発展に寄与するとともに、医療の質を担保する専門医制度の運用と会員の医療レベルの向上に努める必要がある。一方、学問・技術の進歩による研究活動の深化と拡散化、業務の拡大や専門化、支部活動の活性化、学会・研究会の増加などにより、学会員の学術集会に求めるところも変化してきている。さらに、若手病理医・研究医の育成、国際化への対応も重要な課題となっている。

「開催要領」

これらの日本病理学会における命題・課題をふまえ、学術集会では「学術研究活動の発表・意見交換」と「診断病理に関する最新情報の収集」を乖離することなく保証し、次に掲げる観点に添って開催する。

- (1) 病理学に関わる学会員の学術成果の発表の場を提供し、発表を通して若手研究者・病理医の育成を行う。
- (2) 蓄積された完成度の高い研究成果や中堅クラスの研究成果の発表を通して病理医・研究者を育成・刺激する。
- (3) 病理診断・専門医に関連する講習会を通じて診断精度の維持・向上と新知識の習得を保証し、病理診断医育成を図るとともに、基礎病理学的研究と診断病理学的知見を結びつける研究の推進と発表を促進する。

- (4) 世界への情報発信とアジア・オセアニア地域での病理学の中核を担うために国際化に取り組む、など。
- (5) 病理学に興味をもつ医学生を増やすため、学部学生の発表の場を準備するとともに、学部学生の参加に便宜を図る。

「具体的留意事項」

- (1) 春期学術集会：春期学術集会の学術プログラムが研究と病理診断などのバランスの取れた内容とするため「病理診断講習会」「分子病理診断講習会」とシンポジウム、ワークショップ、一般発表演題との重なりを少なくする。そのために病理学会の事業である「病理診断講習会」「分子病理診断講習会」については、それぞれ病理診断講習会委員会、研究推進委員会は学会長と密接な連携により、その内容の充実を図る。専門医資格更新に必要な講習会を実施する。「宿題報告」は1会場で行い plenary とする。
- (2) 秋期特別総会：「学術研究賞(A 演説)(7-8件)」、「症例研究賞演説(B 演説)」及び「病理診断特別講演(2件)」は1会場で行い plenary とする。会長は学術委員会と密な連携をとり、「シンポジウム」、「教育講演」、「公募演題」などは、会長の裁量にて複数会場で行なうことも可とする。IAP 教育セミナーなどとの効果的な連動を考慮する。アジア若手研究者を招聘し発表する場として、インターナショナルポスターセッションを開催する。
- (3) 学術集会プログラム統一性の確保：春期学術集会会長および秋期特別総会会長の立候補者は、学術集会プログラムの統一性の確保や類似プログラムの反復・乱立の回避などのため、プログラム内容や企画方針などを応募申請書に明記する。
- (4) 国際化への対応：学術集会の国際化を促進するために、英語での参加登録、インターナショナルセッションの設置、日程表の英語版の作成などに努める。
- (5) 実際の開催・運営に係る詳細な注意事項は別途定める。

平成 26 年 11 月 19 日 理事会策定

平成 27 年 3 月 17 日 同一部改定

平成 28 年 3 月 25 日 同一部改定

平成 29 年 12 月 1 日 常任理事会一部改定

10. 第69回(令和5年/2023年)日本病理学会秋期特別総会 学術研究賞演説(A演説), 症例研究賞演説(B演説)について(公募のお知らせ)

令和5年/2023年秋開催予定の第69回日本病理学会秋期特別総会(久留米)における学術研究賞演説(A演説)と症例研究賞演説(B演説)の募集をいたします。

これら演説の応募内容は、以下の要件を満たすことといたします。

学術研究賞(A演説)とは:

学術研究賞(A演説)は、病理学領域における特定の課題について、優れておりかつ蓄積した研究業績を挙げていると判断された会員(学術評議員)に授与される。会員の病理に関する学術、医療の振興とその普及に資することを企図して設ける。秋期特別総会にてA演説として発表する機会が与えられる。

学術研究賞の内容は、以下の要件を満たすものとする。

- (1) 優れており、かつ蓄積された研究であること。
- (2) 原則として日本国内で行われた研究であること。
- (3) 内容に関する責任の明確な研究者による発表で、内容は共同研究によるものであっても発表者自身はそれを代表するものであること、従って単独名が望ましい。

尚、Pathology Internationalへ総説を投稿すること。

選出成績上位者は、ヨーロッパ病理学会の派遣候補として推薦する場合があります。

症例研究賞(B演説)とは:

症例研究賞(B演説)は、病理学領域における特定の疾患について、症例の蓄積による解析及び病理診断・病態解明に寄与する優れた症例研究業績を挙げていると判断された会員(学術評議員および学術評議員経験者)に授与される。会員の病理に関する学術、医療の振興とその普及に資することを企図して設ける。秋期特別総会にてB演説として発表する機会が与えられる。

症例研究賞の内容は、以下の要件を満たすものとする。

- (1) 症例の蓄積による解析及び病理診断・病態解明に寄与する優れた研究であること。
- (2) 内容に関する責任の明確な研究者による発表で、内容は共同研究によるものであっても発表者自身はそれを代表するものであること、従って単独名が望ましい。

尚、Pathology Internationalへ総説を投稿することが望ましい。

学術研究賞演説(A演説)、症例研究賞演説(B演説)担当者として講演することを希望する会員は、下記の要領でご応募ください。

記

学術研究賞演説(A演説)

- (1) 応募資格: 日本病理学会学術評議員

- (2) 提出書類: 以下ホームページよりダウンロードしてください

<https://www.pathology.or.jp/news/gakujyutu/2023AB.html>

※応募書類は以下をPDF化した電子媒体(すべての書類をひとつのPDFファイルとしてつなげたもの)にて提出して下さい。

- ① 日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録(900字以内)などを記載したもの。
- ② 講演内容に直接関係のある自著論文20編以内の一覧。
*③の別刷をつけた業績の先頭に「○」印をつけて下さい。
- ③ 上記自著論文一覧の中から代表的な自著論文の別刷(5編以内)。

上記①~③の書類を、順番にひとつのPDFファイルとしてつないでお送り下さい。

*ひとつのフォルダ内に複数のPDF化されたファイルを入れて提出されたものは受け取りできません。

- (3) 提出先と提出方法:

提出先: 日本病理学会事務局 jsp-admin@umin.ac.jp

- ① 応募書類送付の前に、応募申請のe-mailをお送り下さい。

- i) e-mailの件名: 「A演説応募申請」会員番号
- ii) 応募書類送付の方法(下に示すア~オのいずれか)と1. 送信予定日時 2. 氏名 3. 所属(教室名は正式名称で記載) 4. 演題名を記載して下さい。

ア) メール添付(5MB以内)

イ) UMINファイル交換システム

<https://www.umin.ac.jp/upload/>

病理学会事務局ID: jsp-admin

ウ) 民間の大容量ファイル転送サービス

(「データ便」等)

エ) USB、CD-ROM等の郵送

オ) その他の方法(具体的に記載して下さい。)

- ② ①の申請メール送信後、応募書類(すべての必要書類をひとつのPDFファイルとしてつないだもの)をPDF電子媒体として申請した方法にて送付して下さい。

- i) 件名・表題等は「A演説応募書類送付」として、その後ろにご自身の会員番号を記載して下さい。

- ii) ファイル受領から「業務日」3日以内に受領メールを返信いたします。受領メールが届かない場合は、すみやかに事務局にお問い合わせ下さい。

- iii) 各種連絡や審査用資料の作成は、会員システムに登録された情報を元に行われます。事前に登録内容の確認、修正をお願いします。

- (4) 募集締切: 令和5年1月31日(火) 必着

症例研究賞演説（B 演説）

- (1) 応募資格：日本病理学会学術評議員および学術評議員経験者
- (2) 提出書類：以下ホームページよりダウンロードしてください

<https://www.pathology.or.jp/news/gakujiyutu/2023AB.html>

※応募書類は以下を PDF 化した電子媒体（すべての書類をひとつの PDF ファイルとしてつなげたもの）にて提出して下さい。

- ① 日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録（900 字以内）などを記載したもの。
- ② 講演内容に関係のある自著論文 10 編以内の一覧。
*③の別刷をつけた業績の先頭に「○」印をつけて下さい。
- ③ 上記自著論文一覧の中から代表的な自著論文の別刷（3 編以内）。

上記①～③の書類を、順番にひとつの PDF ファイルとしてつないでお送り下さい。

*ひとつのフォルダ内に複数の PDF 化されたファイルを入れて提出されたものは受け取りできません。

- (3) 提出先と提出方法：上に記した学術研究賞演説（A 演説）の（3）提出先と提出方法”に同じ。

※上記「A 演説」の文言を「B 演説」に読み替えの上、ご対応下さい。

- (4) 募集締切：令和 5 年 1 月 31 日（火）必着

第 69 回日本病理学会秋期特別総会における学術研究賞演説（A 演説）、症例研究賞演説（B 演説）担当者は、令和 5 年 3 月の学術委員会において厳正・公明に選考し、同日の理事会での審議によって決定いたします。

本件についてご質問がありましたら、日本病理学会事務局までお問い合わせ下さい。

日本病理学会事務局：jsp-admin@umin.ac.jp

11. 令和 4 年度学術奨励賞受賞候補者の応募について

日本病理学会学術委員会は、学術評議員の推薦をもって学術奨励賞受賞候補者を公募していましたが、令和 4 年度より候補者による応募とし、応募には学術評議員の推薦が必要といたします。

つきましては、令和 4 年度学術奨励賞受賞候補者を以下のとおり募集いたします。

応募内容は、以下の要件を満たすことといたします。

学術奨励賞とは：

学術奨励賞は、病理学領域における研究と診断の中で特に優れた学術的貢献を行った本学会若手会員に対して与えられる賞です。

応募資格について

- (1) 年度末（令和 5 年 3 月 31 日）において、継続して 5 年以上の会員歴をもつ 40 歳以下の会員、あるいは

は学位取得後 10 年以内の会員であること。

- (2) 推薦にかかわる学術評議員各位は、応募者の研究歴・業績などが学術奨励賞に相応しいことを確認した上で推薦すること。

受賞者には、第 112 回総会（令和 5/2023 年 4 月 於 下関）にて開催予定の「学術奨励賞受賞者講演」において英語での口演をいただく予定です。

その際の優秀者は令和 6/2024 年度英国病理学会派遣候補者（本学会より渡航費補助金 15 万円支給）に推薦されます。

応募要領

- 1) 本年度は、数名への授与を予定しています。
- 2) 提出書類：以下ホームページよりダウンロードしてください

<https://www.pathology.or.jp/news/whats/R04Incitement-award.html>

※応募書類は以下を PDF 化した電子媒体（すべての書類をひとつの PDF ファイルとしてつなげたもの）にて提出して下さい。

- (1) 「日本病理学会学術奨励賞申請書」

申請者が上記よりダウンロードした書式に必要事項を記入、押印したものを PDF 化して下さい。

- * (2) の別刷をつけた業績の先頭に「○」印をつけて下さい。

- (2) 本課題に関連する論文の別刷り（3 編以内）

- (3) 「日本病理学会学術奨励賞受賞候補者推薦書」

推薦者が上記よりダウンロードした書式に必要事項を記入、押印したものを PDF 化して下さい。

上記 (1) ～ (3) の書類を、順番にひとつの PDF ファイルとしてつなげてお送り下さい。

*ひとつのフォルダ内に複数の PDF 化されたファイルを入れて提出されたものは受け取りできません。

- 3) 提出先と提出方法：

提出先：日本病理学会事務局 jsp-admin@umin.ac.jp

申請は受賞候補者となる本人から書類をお送り下さい。

- ① 応募書類送付の前に、応募申請の e-mail をお送り下さい。

- i) e-mail の件名：「学術奨励賞応募申請」会員番号

- ii) 応募書類送付の方法（下に示すア～オのいずれか）と 1. 送信予定日時 2. 氏名 3. 所属（教室名は正式名称で記載）4. 申請課題名もしくは功績名を記載して下さい。

- ア) メール添付（5 MB 以内）

- イ) UMIN ファイル交換システム

<https://www.umin.ac.jp/upload/>

病理学会事務局 ID：jsp-admin

- ウ) 民間の大容量ファイル転送サービス（「データ便」等）

- エ) USB、CD-ROM 等の郵送

- オ) その他の方法（具体的に記載して下さい。）

- ② ①の申請メール送信後、応募書類（すべての必要

書類をひとつの PDF ファイルとしてつなげたもの)を PDF 電子媒体として申請した方法にて送付して下さい。

- i) 件名・表題等は「学術奨励賞応募書類送付」として、その後ろにご自身の会員番号を記載して下さい。
 - ii) ファイル受領から「業務日」3日以内に受領メールを返信いたします。受領メールが届かない場合は、すみやかに事務局にお問い合わせ下さい。
 - iii) 各種連絡や審査用資料の作成は、会員システムに登録された情報を元に行われます。事前に登録内容の確認、修正をお願いします。
- 4) 募集締切：令和5年1月31日（火）必着
 - 5) 学術奨励賞受賞者（受賞者）には、賞状と記念品が贈呈されます。
 - 6) 賞の授与は、次年度の総会において理事長が行います。
 - 7) 尚、本件について、ご質問などがありましたら、本学会事務局までお問い合わせください。

日本病理学会事務局：jsp-admin@umin.ac.jp

12. 日本病理学会 100 周年記念病理学研究新人賞の公募について

2011年（平成23年）に日本病理学会は創立100周年を迎えました。日本病理学会100周年記念事業実行委員会では、病理学の医学・医療における位置づけを再確認し、病理学会のあるべき姿と進むべき方向を、より多くの方々と語り合う機会として、創立100周年記念事業を行ってまいりました。さらに、これらの事業と東日本大震災への義援金に加えて、日本病理学会の発展に資するプロジェクトを募集し、2020年までの10年間にわたって実施することと致しました。「日本病理学会100周年記念病理学研究新人賞」は、「病理医・研究医の育成とリクルート委員会（旧・若手医師確保に関する委員会）」が応募し、採用された公募プロジェクトです。本プロジェクトは、その後、理事会にて継続が認められました。

本プロジェクトの概要：

将来的に日本の病理学がバランスよく発展していくためには、臨床側面である病理診断だけでなく、その基盤となる病理学研究も強力に推進する必要がある。ところが昨今の若手医師の研究指向者の激減は憂慮すべき問題である。この問題を少しでも解決するべく、2011年から10年間に渡り、病理学研究新人賞を設定し、若手医師の大学院生を鼓舞することとした。選考は書面による1次審査(8名以内)と春期の病理学会総会時において口頭発表による2次審査を行い、今年度は3名を選出する。春期の日本病理学会総会で表彰し、賞金10万円を付与する。

下記の要領で候補者を公募します。

対象：

以下のすべての要件を満たす者を本賞応募の対象者とす

- る。
- 1) 日本の大学の医学部・歯学部大学院病理学教室（あるいはそれに相当する教室）博士課程に所属する学生であること（応募時）。
 - 2) 応募翌年度の4月1日において、33才以下であること。（1月31日メ切）
（令和4年度対象者：平成元年4月2日以降生まれ）
 - 3) 日本の医師免許あるいは歯科医師免許を有する者。ただし、日本の大学のMD/PhDコースの学生で博士課程に所属する者は応募可能とする。
 - 4) 1年間以上、日本病理学会の会員である者。
 - 5) ただし、出産・育児休暇（休学を含む）を医学部・歯学部入学以降に取っていた場合、大学・病院・指導教官（ただし、日本病理学会学術評議員に限る）などによる証明書（任意の形式）を提出することにより、同期間（最大2年間まで）の年齢制限の延長を認めることとする。

募集締切：令和5年1月31日（火）23：59必着

提出書類：

*応募書類は以下をPDF化した電子媒体（すべての書類をひとつのファイルとしてつなげたもの）にて提出していただくことになっております。

すべてA4の大きさのPDFで提出のこと。

下記の書類を、順番にひとつのPDFファイルにつなげてお送り下さい。

*ひとつのフォルダ内に複数のPDF化した書類を入れて提出されたものはお受け取りできません。

- 1) 履歴書（高校卒業以降、生年月日・連絡先を含めること）
- 2) 業績録（著者名をすべて記載し、代表論文3編までに関して、要旨を含む第1ページのコピー1枚ずつを提出）
- 3) 本人自身の研究業績の要約（1枚、必ずタイトルをつけること）
- 4) 所属講座の教授（あるいは指導教官）の推薦書（1枚）
- 5) 大学院在籍証明書（コピー可）
- 6) 医師免許証のコピー（MD/PhDコースの学生は不要）
- 7) 受賞した場合、受賞後2年以内に本学会学会誌 Pathology International へ投稿を行うという誓約書（形式自由；原著あるいは総説で共著可）。
- 8) 指導教官（ただし、日本病理学会学術評議員に限る）などによる出産・育児休暇（休学を含む）の証明書（任意の形式；該当者のみ）

※尚、受賞後、応募時提出内容に虚偽があることが判明した場合、後日審議の上、受賞の取り消しならびに賞金の返還を求めることがある。

提出先：

日本病理学会事務局 jsp-admin@umin.ac.jp

- (1) 応募書類送付の前に、応募申請の E-mail をお送り下さい。
- ① E-mail の件名として「病理学研究新人賞応募申請」とし、その後ろにご自身の会員番号も記載して下さい。
 - ② 応募書類送付の方法(下に示すア～オのいずれか)と 1. 送信予定日時 2. 氏名 3. 所属(教室名まで正式名称を) 4. 研究業績の要約のタイトルを記載下さい。
- ア) メール添付 ただし 5MB まで
 イ) UMIN ファイル交換システム
<https://www.umin.ac.jp/upload/>
 病理学会事務局 ID : jsp-admin
 ウ) 民間の大容量ファイル転送サービス
 (「データ便」等)
 エ) USB, CD-ROM 等の郵送送付
 オ) その他の方法(具体的に記載して下さい。)

- (2) 上記(1)の申請メール送信後、応募書類(すべての書類をひとつの PDF ファイルとしてつなげたもの)を PDF 電子媒体として申請した方法にて送付して下さい。
- ① 件名・表題等は「病理学研究新人賞応募書類送付」として、その後ろにご自身の会員番号を記載して下さい。
 - ② ファイル受領から「業務日」3日以内に受領メールを返信いたします。受領のメールが届かない場合は、すみやかに事務局宛にお問い合わせ下さい。
 - ③ 各種連絡や審査用資料の作成については、会員システム登録の情報を元に行われます。事前に登録内容の確認、修正をお願いします。

選考予定:

1次審査の結果は、令和5年2月末日までにメールで連絡する。今年度の2次審査は、令和5年4月13日(木曜日)午後第112回日本病理学会総会(下関市)において実施する(発表10分、質疑5分の予定)。2次審査は公開とし、そのプログラムはウェブで告知する。なお、2次審査参加のための交通費・宿泊費ならびに総会参加費は各自の負担とする。

ホームページ

<https://www.pathology.or.jp/jigyou/100syuunen/R4rookie-award.html>

13. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました

山崎 一人 功労会員(令和4年12月9日ご逝去)

お知らせ

1. 【周知依頼】アキシカブタゲン シロルユーセルの最適使用推進ガイドラインの一部改正について

厚生労働省医薬・生活衛生局医療機器審査管理課より、標記周知依頼がございました。詳細は以下ページよりご確認ください。

<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T221222I0010.pdf>

2. 【周知依頼】リソカブタゲン マラルユーセルの最適使用推進ガイドラインの一部改正について

厚生労働省医薬・生活衛生局医療機器審査管理課より、標記周知依頼がございました。詳細は以下ページよりご確認ください。

<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T221222I0020.pdf>

3. 【周知依頼】「臨床試験の一般指針」の改正について

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課より、標記周知依頼がございました。詳細は以下ページよりご確認ください。

<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T221223I0030.pdf>

4. 【周知依頼】「長時間労働医師への面接指導実施医師養成講習会(オンライン講習)の受講受付開始について

厚生労働省医政局医事課 医師等医療従事者働き方改革推進室より、標記周知依頼がございました。詳細は以下ページよりご確認ください。

<医師の働き方改革 面接指導実施医師養成ナビ>
<https://ishimensetsu.mhlw.go.jp/>

5. 千里ライフサイエンスセミナーのご案内

「バイオインフォマティクスの最前線」

1. 日時: 2023年2月20日(月)
13:00~17:50 (WEB配信併用)
2. 会場: 千里ライフサイエンスセンタービル5階
山村雄一記念ライフホール
(大阪メトロ御堂筋線・北大阪急行、大阪モノレール 千里中央駅下車)
3. コーディネーター・座長:
岡田随象 大阪大学大学院医学系研究科遺伝統計学教授
田宮 元 東北大学大学院医学系研究科 AI フロンティア新医療創生分野 教授

4. 開催趣旨:

次世代シーケンサーに象徴されるゲノム配列技術の著しい発達により、膨大なデータが得られる時代が到来した一方、大容量のゲノム・オミクス情報を横断的に解釈し、社会還元するための学問へのニーズが高まっている。

バイオインフォマティクスは生命科学領域における情報解析学問であり、日々発展するゲノム・オミクス情報の分野横断的な統合に適した研究分野として注目されている。従来の統計解析手法に加えて機械学習などの最先端の情報解析技術を活用し、大規模ヒト疾患ゲノム解析と統合することで、疾患病態の解明、個別化医療の社会実装、ゲノム創薬の推進などに貢献できることが明らかとなりつつある。

シングルセル解析による一細胞レベルでの遺伝子動態も観測可能となり、今後の展開に期待が寄せられている。一方、従来の想定を超えた大規模情報の取り扱いなど、新たな課題も見出されている。本シンポジウムでは、バイオインフォマティクスを巡る最先端の知見を紹介したい。

5. プログラム：

13:00～13:05

挨拶

千里ライフサイエンス振興財団

理事長 審良 静男

13:05～13:20

はじめに

大阪大学大学院医学系研究科 遺伝統計学

教授 岡田 随象

13:20～14:00

「遺伝統計学による病態解明・創薬・個別化医療」

大阪大学大学院医学系研究科 遺伝統計学

教授 岡田 随象

14:00～14:40

「がん全ゲノムシーケンス解析の最前線」

国立がん研究センター研究所

ゲノム解析基盤開発分野 分野長 白石 友一

14:50～15:30

「量子時代におけるゲノム解析データのセキュアな活用」

株式会社東芝研究開発センター

情報通信プラットフォーム研究所

上席研究員 佐藤 英昭

15:30～16:10

「大規模バイオバンクリソースを活用した遺伝統計解析」

東北大学大学院医学系研究科

AI フロンティア新医療創生分野 教授 田宮 元

16:20～17:00

「自然免疫応答の遺伝的多様性を単一細胞分解能で理解する」

国立成育医療研究センター エコチル調査研究部

遺伝子解析室 チームリーダー 熊坂 夏彦

17:00～17:40

「オミクス解析における人工知能技術の活用」

東京医科歯科大学 M&D データ科学センター

AI システム医科学分野 教授 清水 秀幸

17:40～17:50

おわりに

東北大学大学院医学系研究科

AI フロンティア新医療創生分野 教授 田宮 元

6. 参加費：無料

7. 定員：会場 80 名、WEB 配信 500 名

(要事前申込・定員になり次第締め切り)

8. 申込方法：当財団のホームページの「参加申込・受付フォーム」からお申込みください。

<https://www.senri-life.or.jp/seminar/seminar-1-20230220a.html>

1) オンサイト会場にお申込みの方：

E-mail でお送りする参加証をセミナー当日に受付でご提出下さい。

2) WEB 配信での参加お申込みの方：

E-mail で参加証をお送りし、開催数日前に参加方法を E-mail でお知らせします。

9. 主催：公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

後援：バイオコミュニティ関西